

問題に出会える学校

常任理事 東京学芸大学助教授 平野朝久

学校では、授業はもちろんのこと学校生活全体において、子どもが失敗やトラブルを起こさないように、教師が先回りして安全で無難なレールを敷き、子どもにその上を歩ませようとしがちである。しかし、それではせっかくの良い学習の機会をわざわざなくしていることになる。

ある小学校1年生の学級でのことである。その子どもたちが育てたかぼちゃがたくさんできたので、それを売ることにした。子どもたちは、町の中へ出て行って売りたいと言う。お店やさんへ行って値段も調べてきた。売れるようにお店やさんより安くして、一番小さいのが50円、その上が100円、200円、250円・・・という具合に値段をつけたが、教師としては心配であった。

お客さんが皆きちんとその値段を支払ってくれるとは限らず、おつりが必要になった時まだその計算の仕方を習っていない子どもたちは困るだろう。では、事前にその計算の仕方を教えるべきであろうか。しかし、今のこの子どもたちにとっては三位数のたし算、ひき算は無理だろう。そうだとすれば機械的にでもおつりの出し方がわかるようにさせておくべきか、それとも問題が生じないような値段のつけ方をさせるか・・・と、その教師が悩んでいた。町の中へ行くのではなく、事情のわかる学校の職員や父母に買ってもらう、おつりのないようにしていただくことも考えられる。

実はここに、一般に教師の陥りがちな問題が示されている。私は、子どもたちがきままに町へ出て行って、おつりの計算という問題をはじめとして様々な困難に出会い、自分たちの課題を背負って帰ってくることを期待したい。聞けば、事前の宣伝もしていないし、いつどういふところなら大勢の人に来てもらえそうかということも考えていないという。それなら、なおさら楽しみである。きっと思ったようにお客さんが集まらなくて、そこでも問題をかかえるであろう。

自分の問題に出会って、自分の知恵を最大限に働かせ、それを乗り越えようとするところにこそ真の学習がある。今の力では適切な解決が無理であっても、後に三位数までのたし算、ひき算を学習する課題に出会った時や2年生の社会科で店

はたらく人たちについて学習する課題に出会った時に、この時の体験が蘇り、そういう課題に取り組むことの意味付けがなされることにもなる。

ついでながら言わせていただくと、私は、その1年生が無謀にも値段だけ考えていきなり町中へ出て売ろうとする無鉄砲さを大事にしたい。大人と比べれば経験も知識も少なく、これから出会う事態を予測できる範囲も限られるために向こう見ずな行動に出るだろうが、それだからこそ生の様々な問題に出会えるのである。思いがけないことに出会ってこそ感動もある。その子どもたちの大胆なチャレンジ精神こそ大事にしたい。

今度、生活科が設置され、体験的な学習が推進されようとしている。ところが、生活体験も教育場面に持ち込まれた時、しばしば活動がスムーズに行われるように配慮されがちである。それでは生活体験のもつ本当の旨味が失われてしまうように思う。課題はこなしても本当の学習はないことになってしまう。

こうしたことは、生活指導の面においても妥当する。学校では、子どもたちのトラブルを未然に防ごうとすることが多い。なにか活動をする前に教師の行う事前の説明や指示、注意の多いのにはうんざりする。たくさんの規則を定めて守らせようとするのも問題を起こさせないためである。失敗したり、問題を起こすことによって取り返しがつかなくなる場合は別としても、教師も子どもも問題が生ずるのを恐れないようになりたい。そして生じた問題を前にしてその都度子どもと教師とが困り、どうしたらよいかを考えるとところにこそ良い学習があり、成長があるのである。

学校にしてみれば、毎年同じトラブルの繰り返しになり、めんどうであるし、見た目にも(外部に対して)格好悪いが、学校というところは子どもが無難に通過すればよいところなのではなく、学習し、人間として育つ場なのである。

社会へ出たら、失敗や問題を起こすことは許されない。しかし、学校はそうではない。失敗後のサポートをする良きアドバイザーとしての教師がついているのも学校なのである。もっとそうした学校ならではの利点を生かしたいものである。

第 2 回 海外 研修 旅行

—OPEN SCHOOL TOUR—

平成2年8月18日～30日

今年、第2回の海外研修旅行が実現し、16名の会員が参加しました。

前半に、アメリカの主要都市を観光し、アメリカという国に触れてから、後半、いくつかの学校を訪問し、授業の様子や施設を見学しました。

日 程	
8/18	サンフランシスコ
19,20	ワシントン
21,22	ニューヨーク
23,24	ボストン (教育開発センター訪問)
25	ナイアガラ
26	オウクレア
27	(小学校・大学訪問)
28	(小学校・中学校訪問)
	ミルウォーキー
29,30	サンフランシスコ経由で帰国

参加された皆さんに、感想をまとめていただきましたので、その一部をここに紹介させていただきます。

個性化教育の原点

愛知県岡崎市 野村 鉦吉

ニューヨーク・ハドソン川河口に立つ「自由の女神」を、フェリーで島に渡り仰ぎ見た。この像は自由を求め海を渡り来た幾千万の人々の胸をときめかしたごとだろう。原語はザ・スタチュ・オブ・リバティ。自由の彫像である。情緒的な日本人は彫像を女神にすり替えてしまう。アメリカ独立戦争、フランス革命、黒人解放、天安門事件、東欧の自由化のどの歴史を見ても血で血を洗って自由を求めている。彫像の言葉には歴史の重みと厳しさがにじみ出ている。日本人は女神にすり替えることで現実の厳しさと重さを見失わせる。外交、構造協議、政策など日本人は誤訳で誤解し損ばかりし、その上馬鹿にされ、二流国(政治的に)扱いされている現実を直視する必要がある。日本の自立、日本の個性化のためとも言いたい。

ワシントンでリンカーン像に対面する。アメリカの良心と言える彼の偉大さに触れた思いがする。同時に彼の悲しみを観る。多民族国家のかかえる貧富の差、犯罪の多発、民衆学力の低さ、産業の

空洞化等々。

アメリカの広野をドライブしていく。なんと広いことか。アメリカはその偉大さすばらしさに限りなさを感じる。また逆に悪さ欠点を数えだしたらこれまた限りない。底知れぬ奥行きを深さを改めて実感した。一面だけ見て言うのは危ない。地理的にも東部と西部、北部と南部がかくも違うものかというのも驚きの一つであった。

心に鮮やかさを残したものにウィスコンシン州のオシオ小学校がある。オープン式の学校の環境のすばらしさ、施設の良さ、先生の多さもさることながら、併設されている幼年学級(1年生の前段階)の壁のこの言葉!!

「I am good that I am Me. I'm the only Me in the world.」

先生が、日本の「むすんで開いて、その手を上に…」のように動作を入れて童謡を幼児たちといくつも歌ってみえた。その歌の中の一つに上の言葉がまた歌になってとびだしてきた。「私ってすばらしいものね、私は私だもの。私はこの世の中でたった一人しかいないもの。」この幼少の時からさりげなく童謡に託して自己の尊厳と自信を持つように歌いあげていく。これだ!!と私の胸中に電気が走った。個性化教育の原点がここにある。「自信を持ちなさい。自分をしっかり持ちなさい。自己を堂々と主張しなさい。そうしないとこの世では押しつぶされて生きていけないのよ」というように聞こえてきた。



興興で子どもたちを指導される加藤先生

日本の少年少女も時代の変化によって自己を確立させてやらないと駄目だと言える。いじめや、登校拒否や、突然意欲喪失の怠学などでつぶれてしまう子がふえてきている。個性化教育してやらないと生きていけない時代になってしまったことを気づかせてくれた歌であり言葉であった。

アメリカ合衆国雑感

愛知県岡崎市 岩附肇・峯子

Open School Tourのはしに加えていただき、合衆国の東海岸と中北部ウィスコンシン州の小中学校・大学を回らせていただいた。

一行のリーダーは加藤幸次教授であったが、先生の親切と精力で、市電・市バス・地下鉄をできるだけつかい、自由時間を多くとっていただいたので、合衆国の人々や街の美醜を肌で感じとることができ、旅は歩かなければだめだということは今更ながらしみじみと感じさせられた。

サンフランシスコもワシントンもニューヨークもアメリカ人と思われる人は男女とも巨人が多く太った人も多い。一見スマートな男性・女性でも腰回りは太くがっちりして圧倒される。特にニューヨークは繁華街を歩く白・黒・混血、とにかく大きくたくましく無気味な感じすら与えられる。治安も悪く、スリの被害にもあった。

ボストンに入ると古風な焦げ茶煉瓦のこじんまりした住宅が整然と並び、続く再開発地のビル街もきれいでゆったりと落ち着き、上品で美しい紳士・淑女を多く見かけた。

ウィスコンシン州オウクレア市 (Eau Claire) 州都マジソン (Madison) では可愛い児童、理知的な大学生、品の良い教授方に多く接し、スーパーで会う人々も売り子も振り向くような美人が多かった。巨人も少ない。見た限り米国は北へ行くほど、田舎へいくほど美人や紳士が多いように思えた。オウクレアでは夜戸締まりをしなくても心配ないと言われた。

オシオ小 (Osseo) では教室の壁仕切りがなく戸棚・教具等で隣のクラスと簡単に区切られ、(各学年2クラスずつ上下能力別) 授業は大部分が自主学習で、各クラス1~3名の教師が1名ずつの児童を個別指導していた。各組25名内外。静かて他のクラスに迷惑をかけることもない。

新設のメドウビュー小 (Meadowview)、9年目のサウスミドル中 (South Middle) とも中央にすばらしいメディアセンターをもち、専科教員も多い。日本の3倍近い教職員の陣容で、これなら個別教育も個性の伸長も自主学習もやりやすい。特に中学の特別教室の充実、室内プールはうらやま

しい。体育館、講堂も別。敷地は端がわからない。

大学生は開講前のオリエンテーション期だが、行きかう学生は、皆重たいほど本をかかえて歩いていた。学生らしく清楚である。教授も業績が少なければすぐに左遷とのことで学究の匂いをたたえ謙虚であった。貴重な経験に感謝したい。



ボストン教育開発センターにて

オープンスクールツアーに参加して

兵庫県神戸市 谷口育史

私は今回、幾つかの小・中学校や教育開発センターを見学して感じた。「借金国アメリカの教育の方が、金持ち日本の教育よりも、豊かに地に足のついた教育を実践しているなあ。」と。

アメリカの教育に学ぶとすればどんな所を学ばよいか。アメリカ在住の知人が「アメリカの学校は『図書館』をモデルにしている。ヨーロッパの学校は『家庭』をモデルにしている。」と言っていたのが心に残った。

また、教育現場と環境設定者(校長・教育委員会の人達等)との連携がうまくいっている。良いと思ったことは、すぐ実践できる柔軟な組織。

そして、とにかく空間に恵まれている。空間の使い方がうまい。とても羨ましい。

また、教育を受ける側を主体に考えるために、児童・生徒一人当たりの教師数が多い。(わざと逆に書いた。) 児童・生徒一人当たりの学習材・教材が多い。ということも日本との大きな違いだった。このことは、日本での個別化・個性化を進めていく上で大事な考え方であると感じた。

最後になるが、このツアーで私は、3年前に共に学んだ知人と再会できた。しかも彼は、ツアーの重要な仕事である通訳・案内・運転手として来ていた。全くの偶然である。日本でなくアメリカで、しかもツアーの手伝いとして。ここまでの偶

然は人の心に何か神秘的な感動を呼び起こさずにはおかない。全個教連に入会したことも、このツアーに参加したことも本当によかった。旧知の友との楽しい4日間もおまけについた、私にとってすこぶる印象深いツアーだった。

さらに機会があれば、他の国々の教育現場を見たり、教育実践者との交流を深めたいものだ。

心の教育

東京都江東区 小堀川まり子

サンフランシスコもワシントンD.C.もニューヨークもボストンも、あまり印象に残っていない。オウクレアのゆったりした時間の流れの中で、初めてアメリカを肌で感じる事ができた。子供たちの笑顔、先生方と片言で話したひと時などが一番の思い出となった。

今度の旅で、一番印象深かったのは、オシオ小学校内の幼稚園の先生がおっしゃった言葉「ここへ来て子供たちが一番最初に学ぶのは、自分を愛する心です」だ。先生といっしょに子供たちが自分自身を抱きしめている姿が今も目に浮かぶ。「子供たちはまず何よりも自分を大切にすることを学び、その心からまわりの人たちを大切にすることを育てていく」のだとおっしゃった先生の言葉に、アメリカの教育の姿勢を感じた。

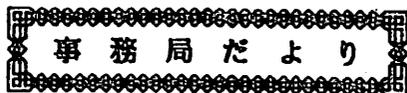
アメリカの子供たちは、幼い時から自分で選ぶことを要求される。日本で、だれかが選んでくれる、またはセットされた生活に慣れた私は、食事のメニューを選ぶだけでも迷ってしまった。自由というものは、かなりめんどうなものだ。しかし、自分を大切にするためにすべての人間は自由でなければならない。

校内に配置された教具も、子供の側に立っていた。先生から教えこもうとするのではなく、子供が選んで勝手に使えるようになっていたり、子供の興味を誘うように気が配られていたりしていた。また、かまくらのような逃げこめるスペースや、カウンセリング専門の先生やカウンセリングルームの内装や音楽に、子供の心を大切にしようとする姿勢が感じられた。

自由の大切さや、自分を大切にすることを、私も自分の子供たちの内に育てていきたいと思う。

もうひとつ、今度の旅が有意義だったのは、参加した先生方が、齊森から兵庫まで、またがっていたため、色々な土地の学校の話が聞けたことである。日本の中でも、学校によってこれだけ違いがあるのかと驚かされた。

たくさんの先生方と親しくお話をさせていただいて、本当に楽しい旅だった。



事務局だより

この夏で、会員数が500名を越え、念願の会員名簿もできあがりしました。夏季研修会・海外研修旅行ともに大きな成果があがりました。参加できなかった会員の皆様とも、これから全国各地で開かれる個性化教育の研究発表会で、お会いできたらと思います。

会報の内容を一層充実させるために、次のようなコーナーを設けたいと考えています。

〈個性化教育Q&Aコーナー〉

本会の会員の先生方は、それぞれの現場で個性化教育を推進されていることと思います。実際に個性化教育に取り組まれて、また、これから取り組むにあたって、抱えておられる疑問をお寄せください。加藤先生、高浦先生が答えてくださいます。

〈私の主張コーナー〉

一口に個性化教育といっても、そのとらえ方や方法は様々です。会員相互で意見交換をし、さらに深めていきたいと思えます。あなたのお考えをお寄せください。

海外研修旅行特集は、いかがでしたか。このツアーがまだ終わらないうちから、次回のツアーの話も出始めていました。今回参加できなかった方も、ぜひ次の機会にはご参加ください。

次号は、福岡での夏季研修会の特集をお送りする予定です。

本年度の会費（個人3000円、団体5000円）未納の方は、至急納入願います。

口座番号東京0-194394

加入者名 全国個性化教育研究連盟

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉

〒114 東京都北区赤羽南1-16-2-504

庶務部長 佐久間茂和

☎03-903-4780

〒114 東京都北区田端1-10-2-201

広報担当 望月桂二

☎03-822-1366

〒236 神奈川県横浜市金沢区泥亀2-3-1-203

事務局長 高浦勝義

(国立教育研究所) ☎03-714-0111